

氏 名：今村 恵美子 議員

項 目：後年度財政負担を減らす

Q 1：施設建設費を減らし、起債償還金額を最少にする。これは、人口減少社会の中で、当組合の課せられた最大の優先課題である。これをどう実行するのか答弁を求める。

A 1：議員ご指摘のとおり、施設建設費を縮減し、起債償還額を最小限に抑えることは、人口減少社会を見据えた将来的な視点のみならず、現在の構成市町の厳しい財政状況を踏まえても、極めて重要な課題であると認識しております。

そのため、今回の費用縮減の検討においては、構成市町が費用負担可能な計画となるよう、廃棄物処理に精通した学識経験者からの助言も受けながら、多角的かつ実現可能な方策を検討し、最大限のコスト削減を目指してまいります。

項 目：なぜ、新管理者が決まった時点で組合議会との整備計画の変更について協議の場を実施しなかったのか。

Q 2：事前に議員諸氏から臨時議会の開催要請があったにもかかわらず今定例会で管理者会の決定で整備計画変更の説明と予算計上がなされた。なぜ、まずは、議員との意見交換の場を作らなかったのかの答弁を求めます。

A 2：田島新管理者の就任以降、まずは執行部内の意見をまとめるため、6月26日、7月9日、7月28日の計3回にわたり管理者会議を開催し、協議を重ねてまいりました。

その結果、1市4町の合意形成がなされたことを受け、8月7日の全員協議会において議員の皆さまにご説明申し上げ、本定例会においてご提案させていただいたのでございます。

項 目：彦根市清掃センター運営と広域ごみ処理施設整備検討は別問題である

Q 3：一部事務組合である当組合は、1市4町の住民に対し、憲法に明記されたナショナルミニマムの観点から関係住民へ公平対等なサービスを実施する義務があり、彦根市清掃センターの老朽化は基本的に運営主体である彦根市の問題であり、管理者の公私混同の発言は慎むべきと考えますが、見解を求めます。

A 3：彦根の問題だから私たちは関係ない、ということであれば1市4町で広域行政組合を形成している意味はあまりないのではないかと考えております。

他の4町の課題も我が事のように一緒に捉えて皆さんと一緒に取り組んでいきましょう、それが1市4町の広域行政組合ではないかと私はそのような認識を持って、

組合の管理者に就かせていただきました。

彦根の課題全てを同じように背負ってもらうとは考えておりませんが、それぞれの自治体が抱える課題を共有しながら我が町の課題を解決していく、他の町の問題も理解して協力して課題を解決していく、私はそれが広域行政組合の基本だと認識しております。